

<b>2016年度 ハンノ ドネヴェーク氏 ファゴット 特別講義</b>
--------------------------------------

1. 日 時 : 2016年10月28日(金)13時30分～16時45分
2. 場 所 : O号館 202教室
3. 対 象 学 生 : ファゴット 専攻生                      学内のみ他聴講可
4. 講 師 紹 介 : ハンノ ドネヴェーク氏 (Hanno Dönneweg)

9歳からバスーンを習い始め、シュトゥットガルト音楽演劇大学にてセルジオ・アッツォリーニに、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学にてクラウス・トゥーネマンに師事。オーストリア、イタリア、ドイツのマイスターコースでヤノス・メサローシュ、ヘルマン・ユング、セルジオ・アッツォリーニ、オスカル・ボオルケス、クラウス・トゥーネマンの下で研鑽を積む。

1999年、ドイツ音楽コンテスト”ソリスト“で奨学金を授与され、‘Konzerte junger Künstler’(若手アーティストのコンサート)のメンバーとなる。2001年から2002年には、ヘルベルト・フォン・カラヤン財団、ベルリン・フィルの奨学生であった。数多くの音楽コンクールで受賞経験を持つ。

メクレンブルク=フォアポンメルン、シュレースビヒホルシュタイン、イッティンゲン(スイス)のフェスティバルにて公演。ジャック・ズーン、ハインツ・ホリガー、ラドヴァン・ヴラトコヴィチ、レオニダス・カヴァコス、ザビーネマイヤー等、そうそうたるメンバーとアンサンブルを組んだ経験がある。オルガンとチェンバロ奏者のステファン・シュヴァルツとデュオでアントニオ・ヴィヴァルディのソナタのCDを発表。(ORGANUM社)

SWR シュトゥットガルト放送交響楽団で独奏、パラグアイのアスンシオン交響楽団、エッセンのフォルクヴァング室内管弦楽団、マンハイムのクーアプ ファルツ室内管弦楽団で演奏、大植英次、シギスヴァルト・クイケン、下野達也、ヨハネス・メスズ、サー・ロジャー・ノリントンなど名高い指揮者と共演するなど、幅広く活躍している。

シュトゥットガルト放送交響楽団の”ヤング・クラシック“プロジェクトの一環として、学校や音楽学校を訪問し、クラシック音楽を魅せたり、ドイツ、日本(東京)、台湾、アメリカ(シンシナティ)においてマイスターコースの講義をするなど、若者への音楽の伝授にも精力的に取り組んでいる。2008年から2011年まで、日本におけるアフィニス音楽祭の指導者であった。シュヴァルツヴァルトで毎年開催されるベアークシュタットゾマー(音楽祭)の共同 創設者でもある。

2002年8月よりSWRシュトゥットガルト放送交響楽団のソロ・ファゴット奏者として活躍している。

5. 講 義 概 要 :

近藤 花南(大2)	伴奏:細田 知佳(大2)
ファゴットコンチェルト e-moll	ヴィヴァルディ
富山 和佳菜(大3)	伴奏:笠場 美結(大4)
サラバンドとコルテージュ	ディティユー
足立 奈央(大4)	伴奏:秋山 里菜(大3)
ファゴット・ソナタ	サン=サーンス
--- ハンノ ドネヴェーク氏によるソロ ---	
ファゴットの為のソナタ	サン=サーンス